

令和6年度生徒指導サポート実践校 「特別活動の取組事例」

学校名	府中町立府中緑ヶ丘中学校	校長	東 秀樹	生徒指導主事	梶山 直樹
取組事例名	『SEL 8s にもとづく SST (ソーシャルスキルトレーニング)』 全校 SST				

1 取組の設定	
取組を実施する意図及びねらい	取組を通して育てたい児童生徒像
人間関係づくりトレーニングの指導を通して、生徒と教員のコミュニケーション能力の向上及びコミュニケーションが円滑に行くことにより、よりよい人間関係を構築する。	コミュニケーションの取り方や自己コントロールの力を身につけ、人間関係の中でトラブルが起きそうなときや起きた時に適切に対応することができる児童生徒。学校全体としての、積極的な生徒指導と問題行動の未然防止の推進にも繋げていくことができると考えている。



2 展開	
取組の具体的内容	取組の創意工夫
<p>①講師の紹介・流れの説明</p> <p>②「はあ」っていうゲームの説明 ペア活動(「はあ」っていうゲーム)</p> <p>③イラストを見て、「しかのコマ」を使いどんな状況なのか考える(個人)⇒周りの共有⇒発表</p> <p>④いじめの構造について説明し、「傍観者」「聴衆」の存在に気付かせる。</p> <p>⑤「いじめではないか?」と思ったとき、どんな行動ができるのか考える。 (個人:1分)⇒(ペア:2分)⇒発表(3グループ)</p> <p>⑥もし相談されたらどんな行動をとればいいのか「トラブル解決4兄弟」をもとに考える (個人1分)</p> <p>⑦学校内の相談窓口並びに校外の窓口を知り、相談された側も「一人で抱えない」ようにする。</p> <p>⑧小泉先生による講評と講話 「今の中学生に伝えたいこと・身につけてほしい力」</p>	<p>生徒にめあてをもたせるために 学校生活や日常生活で起こる問題からテーマを取り上げることで、SSTを学ぶ必要性を確認している。 また教員側にもSSTに係る校内研修を年に2回実施し、教える側にも目的の共有を図っている。</p> <p>生徒の意欲を高めるために テーマごとに授業内でロールプレイを実施することにより、実生活でどのように使うかを体験することで「使ってみようか」という日常的な気づきをもたせるようにしている。生徒会と連携し、生徒から発信することで自分事としてとらえやすくなる。</p> <p>生徒の頑張りを認め、価値付けるために SEL-8Sの研究者である小泉先生に直接生徒の様子を見てもらい評価していただいたのは、生徒の自己肯定感の向上につながった。</p>



3 成果と課題
<p>成果：研修を行い学校全体で目的や手順などを抑えることで、生徒の中にも「SST」という言葉が浸透している。生徒会からもより多くの場面でSSTを実施したいとの声が上がっており主体的な取り組みになっている。アンケートを実施すると実際にSSTでの学びを活用している生徒が7割に達していた。</p> <p>課題：授業だけにとどまらず生徒や教員が日常生活の場面で使えるようになることが課題であり、それには教科や分掌を超えた取組にしていく必要性を感じている。</p>